

リアル宝探しによる地域活性化事業

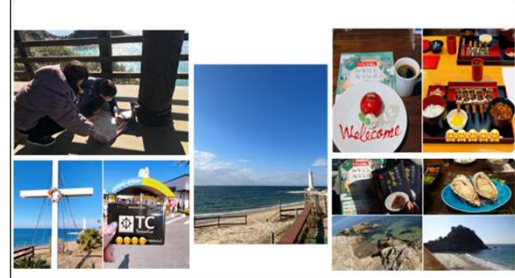
半田市（知多半島観光圏協議会） × 愛知道路コンセッション株式会社

取組概要

有料道路コンセッション事業を知多半島道路で運営、維持管理をするSPCが、知多半島全域の10市町を巡るリアル宝探し（初級・中級・上級）イベントを開催することで、コロナ禍でも家族ユニットで楽しめる密にならない企画により、知多半島エリアへのリピート訪問と地域活性化の促進に取り組んだ。



Treasure Road in 知多半島 知多信長 秘宝伝説



参加者（インスタグラム投稿）

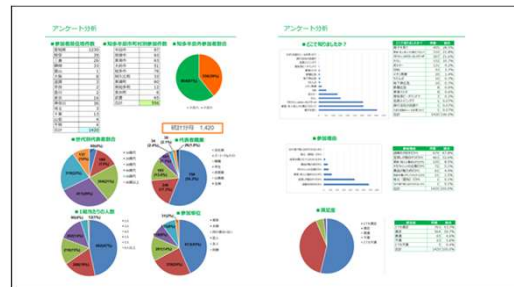
基本情報

代表地方公共団体	半田市（知多半島観光圏協議会）
代表民間団体	愛知道路コンセッション株式会社
他の連携団体等	株近畿日本ツーリスト株式会社、株式会社カラッシュ
カテゴリ	観光客の誘致／地域振興・交流／地域情報・行政情報発信
事業費	1200万円(2021年)
めざすSDGsゴール	
事業化までの期間	2021年1月～2021年11月

取組内容



エリアマップ・発見報告場所



アンケート分析（参加人数・エリアなど）

この取組で解決した課題	知多半島は、春の潮干狩りや夏の海水浴で賑わいを見せる「夏型」の観光エリアだが、秋が過ぎ、冬においては閑散期となり来訪者が減少することから、いかにして知多半島の各地域に人流を生み、地域の活性化に繋げられるかが、観光に頼る知多半島エリアにおける地域課題であった。また、新型コロナウイルスの影響により様々な集合イベントが企画・開催出来ない中、屋外の開催かつ少人数で参加ができる（非接触型イベント）として企画・開催し、閉塞感から開放される「Withコロナ企画」として家族・友人ユニットでの訪問の機会（リピート訪問）を促し、知多半島全域における地域の活性化につなげた。
解決に向けた手法	知多半島における10市町の自治体商工観光課や観光協会、商業・文化施設と連携し、以下の点を実施した。開催期間は、2021年12月1日から2022年3月13日まで。知多半島10市町を3つのエリア（初級・中級・上級）に分けて企画した。 ①多くの人に知多半島全域を巡ってもらえるよう、各市町から宝箱やヒントの訪問施設を選定してもらった。 ②宝箱以外の場所も巡ってもらえるように各エリアごとに「発見報告場所（商業施設）」を設けた。その際「ガチャガチャ」を引いて当たると商業施設で使える商品券等がGETでき、地産品のついで購入等、店舗売上の創出や新たな周遊の目的地を設定した。 ③新型コロナウイルス対策として開催期間を3ヶ月と長めに設定することで、分散参加により密となる状況を防いだ。また、全ての宝箱・手がかりの設置場所を屋外にしたことで3密を招かないよう配慮した。WEBによるアンケートとすることで接触機会を減らす対策を講じた。

取組詳細

事業推進上の各団体の役割分担	近畿日本ツーリスト株式会社：調整、開催期間の管理全般、アンケート集計 株式会社タカラヅシユ：宝探し企画(謎解きストーリー構成・設置物制作など) 知多半島観光圏協議会：後援 愛知県・愛知県道路公社：後援
地域関係者との連携方法	知多半島観光圏協議会：知多半島10市町各自治体観光関連部局との調整 知多半島10市町商工観光部局：巡りどころの選定、観光・文化・商業施設への協力依頼 知多半島10市町（観光・文化・商業施設）：宝箱・手がかりの+B188設置
資金調達方法	主催者の全額負担。地域活性化事業費として捻出した。
資金調達方法の補足	【協賛金】 知多半島全域を巡り、レポート訪問を促す企画として立案していたが、新型コロナウイルスの関係上、開催する時期が定められず、中止することも否めない状況下であった。その結果、協賛先を募ることができず、全額自社のみで資金を捻出せざるを得なかった。
事業推進上の課題・工夫	市町広域連携の企画実績がない当社が主催するにぎわい創出事業に知多半島10市町の各自治体観光関連部局の皆様へ企画内容のご理解とご協力を得る上で、説得力ある企画内容とするために三英傑（織田信長・豊臣秀吉・徳川家康）の歴史にちなんだ地域ゆかりの謎解き構成を企画した。 新型コロナウイルスの影響を考慮し、3密を避ける企画としてできるかぎり安心して参加できるよう配慮と工夫を凝らした。謎解きのコースは、初級・中級・上級に分かれており、1コース半日から1日程度費やす移動距離で設定し、昼食やカフェタイムも旅程に組み込みながら、知多半島を2度3度とレポート訪問していただき、近場の新たな訪問先を探求してもらう場所を選定した。謎解きに答えて応募できる抽選商品には、「もう一度知多半島に来訪してもらいたい」との思いから、ホテル・旅館の宿泊券や飲食店舗で使える食事券、共通クーポン券や「知多半島を思い出してもらおう」グルメ・特産品をするよう工夫した。

担当者のコメント

地域の活性は、どの地域でも共通の課題であり、継続していくことが大切だと感じています。「Treasure Road in知多半島」が、知多半島の賑わい創出につながる「人流を生む」イベントとして定着し、知多半島10市町の各自治体の皆様と民間事業者とが連携・共催して「知多半島ファン」を増やしていける企画にしていきたいと思っています。今後のイベント活動では、開催実績のデータを集積し、分析、行動予測や渋滞・混雑回避へとフィードバックさせ、行動変容や効果的な誘客を実行できるようDXへ取り組みに行く必要があると捉えています。

優良事例応募項目

取組のポイント（3つの視点）	①地方創生SDGsの視点 リアル宝探しにより現地を訪れる機会を誘導し、屋外へ出てる行動を促している。謎を解くヒントや宝箱は、公園緑地や海辺、離島等も含まれ広域を巡る機会も創出している。商業施設の就労者もイベントに携わることで来訪者への受入れ対応や、参加者自身が訪問先で「まちの在り方」等を感じる機会を享受している。 ②ステークホルダーとの連携 知多半島10市町の巡りどころを謎を解きながら訪問・回遊させる企画内容として構成されており、各市町が来訪を望む「穴場」のようなスポットや押したい施設が効果的に選定できることから誘客性が高いイベントが企画できた。発見報告場所を商業施設とすることで立寄った際の「ついで購入」から特産品や土産品の売上につながる効果がみられた。謎解きのコースエリアが3-4市町間を巡る設定で構成されており、謎解きゲームに参加している時間内に、自ずと食事や休憩を挟むこととなり、10市町に所在する飲食店舗での経済効果も見込むことができた。 ③モデル性・波及性 地方自治体は、市町村民税等の財源が明確なことから、それぞれの行政サービスやイベント企画に独自性が高く、他市町との連携事業は、まだ少ないようであるが、本事例のよう10市町に理解と協力を得た企画モデルとして広域に官民が連携したイベントが活発になることで、大きな人流が創出され、にぎわい創出と地域経済の活性化への波及効果は、十分期待されると思われる。
----------------	---